第34回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ
～雲をつかむ～

教育と普及委員会

主　催：日本気象学会
後　援：気象庁，日本地学教育学会，(財)日本気象協会，(財) 気象業務支援センター

●この講座は最新の気象学の普及を目指して，毎年夏休みの時期に開催しています．小・中・高校で理科担当の先生方の他に，気象学に興味をお持ちの学生や一般の方を対象にカリキュラムを組んでいます．

今回は，「雲」をテーマに取り上げます．さまざまな気象現象の中で，最も身近に観察できるものに雲があります．そして，天気の予報は，その雲の振る舞いを予測することに他なりません．しかし，雲を科学的に理解することは，容易ではありません．講義では，雲はどうしてできるのかといった基本的な話から雲に関する最新の研究成果の紹介まで，雲に関連するトピックスを含めて易しく解説していただきます．また，見学会では，雲や雪を実験室で作ることも予定しています．

受講料：一般5,500円，教員5,000円，気象学会員・学生4,500円（消費税含む）
日　時：平成12年８月23日（水）（９時30分受付開始）から８月25日（金）までの３日間（ただし，25日（金）は希望者のみ（定員30名先着順）による気象庁施設見学会です）
会　場：東京都文京区本郷7-3-1
東京大学本郷キャンパス内
東京大学山上会館
（次ページの地図を参照して下さい）

●往復はがきの往信に以下の必要事項を，復信には宛先を記入してお申し込みください．受付次第，復信にて受講の可否をお知らせします．

1　「夏季大学参加希望」
2　住所・氏名
3　職業
（学生・教員の方は，所属がはっきり分かるように記入して下さい．それ以外の方は，概略（会社員，団体職員等）で結構です．なお，気象学会員の方は「気象学会員番号」を，あわせて記入願います）
4　連絡先電話番号（平日日中に連絡可能なところ）
5　見学会への参加希望の有無
6　テキストの送付先
（住所と同じ場合は省略して構いません）

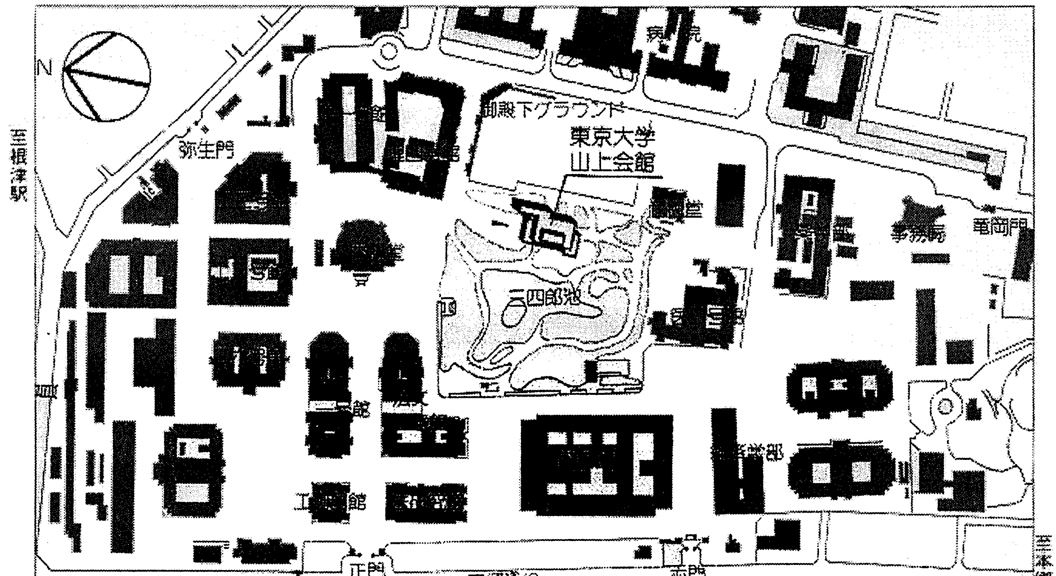
申込先：〒100-0004　東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内　日本気象学会事務局
申込締切：平成12年７月19日（水）必着
ただし，定員（約100名）に達しましたら締め切らせて頂きます．
受講料支払方法：復信受け取り後，郵便振替によりお支払いください．受講料の振込を確認した後，テキストと受講票をお送りします．口座番号等は復信によりお知らせいたします．

●テキストのみ希望される方は，はがきに必要部数を書いてお申し込み下さい．テキストと振替用紙をお送りします．代金は１部1,000円と送料（実費）です．刊行部数が少ないので早めにお申し込み下さい．

●会場への交通
地下鉄丸の内線
本郷三丁目駅下車徒歩10分
地下鉄南北線
東大前駅下車徒歩10分
地下鉄千代田線
湯島駅または根津駅下車いずれも徒歩10分
都バス東大構内行き
上野浅草口，お茶の水聖橋口：東大病院前下車
都バス荒川土手行き
東京駅丸の内北口：東大正門前下車
都バス駒込駅行き
東京駅八重洲口：東大正門前下車

●お問い合わせ先
気象庁内　日本気象学会事務局
Tel ：03-3212-8341（内線2546）
Fax ：03-3216-4401

第34回夏季大会「新しい気象学」～雲をつかむ～　講義時間表

	10：00～11：30	13：00～14：30	15：00～16：30
8月23日 水曜日	**雲から学ぶ** 田中豊顕（埼玉大学） 子供たちはバーチャルリアリティーの世界で効率的？に「自然を」学ばされている．しかし人は自然に育まれ『自然から』学ぶことによって成長する。身近な自然―雲や降水―を材料に，理科離れを防ぐ具体策を考えたい．	**雲の性質** 水野　量（気象大学校） 地球大気の大きな特徴である雲には，巨視的側面から微視的側面までさまざまな雲の性質がある．これらの雲の性質を表す各種パラメータを説明し，大気中の雲の役割を理解する．	**いろいろな雲の姿** 武田康男（千葉県立野田高等学校） 各地で撮影した，いろいろな雲の写真を紹介する．また，その時の気象状況や風景なども説明し，雲を通して空を観察する面白さを，体験を基に話す．
8月24日 木曜日	**雲研究の最近の話題** 藤吉康志（北海道大学低温科学研究所） 地球環境問題は複雑な系をなしている．特にその要は雲であり，雲に関する研究が重要である．本講義では，雲が重要である理由，およびリモートセンシングや人工雲を使った実験など雲を捉える最新の試みについて語る．	**降雪実験** 村上正隆（気象研究所物理気象研究部） 人類は大昔から，水資源確保や厳しい気象条件の緩和等を目的として気象・気候環境を調節しようと試みてきた．人工降雨降雪を中心に，雲や降水の人工調節について紹介する．近い将来の人工調節技術実用化の可能性を展望する．	**霧と層雲の話** 澤井哲滋（気象庁大気汚染気象センター） 大部分が高気圧圏内の現象である霧をその発生機構に基づいて分類すると共に，よく似た条件で発生する層雲との類似と相違を明らかにする．霧の観測手段と予測の方法，そして社会に対する影響などについても考える．
8月25日 金曜日	**施設見学**（気象大学校・希望者のみ）13：00～14：30 低気圧や高気圧を模式的に再現する回転水槽実験，低温室の中で氷晶を作る実験，イオンクロマトグラフィーによる降水の化学分析，各種観測装置と天気図資料等を説明する．		

東京大学山上会館案内図